

グローバル教育

グローバルな人材の育成、視野。教育分野で「世界的な」を意味する「グローバル」という言葉が頻りに登場するようになってきた。これらは一体どのような方針、取り組みなのか。文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)に指定された高校で探ってみた。(古池康司)

昨年十二月二十一日、韓

国・ソウル近郊のホテルで、愛知県立旭丘高(名古屋市中区)の二、三年生三十人が、現地の高陽国際高生三十人と向き合い、主に英語で意見を交わした。

テーマは、「歴史問題で歩み寄るために必要なことは」「日韓関係の充実に向けて世代は何ができるか」など全部で十五に上った。

「過去の植民地統治に対し、日本はトップの謝罪が必要ではないか」「村山談話など日本政府はおわびを出している」。二時間半で、話題は首相による靖国神社参拝や日韓で共通する格差問題にも及んだ。

日本への反感が強いのはと身構えた生徒もいたが、流ちょうな英語に加え、第二外国語の日本語でも話し掛ける韓国の生徒たちとすべにうち解けた。「偏った情報に左右されず、互いを素直に知ることが大事」と一致すること

も多かった。

今年一月、韓国訪問を振り返ったゼミでは「歴史の壁はあるが、若い世代が交流するのは難しくないと前向きな意見が出た。二年水野拳徳君(も)は「何が正しいか判断するために、知識を蓄える大切さが分かった」と話す。

「共生と調和のグローバル時代を目指してアジアから世界へ」をテーマにした旭丘高のスーパーグローバルハイスクール(SGH)ゼミの一環。昨年五月から週一回、研究者や韓国からの留学生らを招いて韓国経済や日韓の歴史問題を学び、事前に初歩的な韓国語の習得、模擬討論をして韓国訪問に臨んだ。四泊五日の日程でソウル市街地や大学、大企業も視察した。

「グローバル」の趣旨は、英語ができて外国人と流ちょうにコミュニケーションすることとは違ふ。ふだんは日本史を教える担当

海外交流で相互理解

の服部誠教諭(ま)は「互いの文化、歴史の違いや立場を理解した上で主張し、妥協点を探る人材こそグローバル」と考えた。日韓の問題は難問だが、服部教諭は「教師にやらされるのではなく、自分の力で調べ、探るようになった」と手応えを感じている。

岐阜県立大垣北高(同県大垣市)は一年生全員の三百二十人が対象。アジアに

スーパーグローバルハイスクール(SGH) 文科省が2014年度に開始し、全国で56校を指定。期間は5年で、指定校は1600万円を上限に経費を受けられる。中部では旭丘高、大垣北高、名城大付属高のほかに長野県長野高、三重県立四日市高、滋賀県立守山中・高、福井県立高志高、静岡県立三島北高、金沢大付属高(石川県)、富山県立高岡高。15年度も新たに50校程度が指定される予定。

進出する岐阜県の企業人の講演を聴いたり留学生と交流したりして、開発や環境、エネルギーなどでアジアの課題を探る。大学教員の指導を受け、リポートを英語でまとめている。担当 中村区)は昨年十月にイン

「正解ない問題」対応力育む



⑤歴史問題などをテーマに意見を交わす旭丘高、高陽国際高の生徒ら⑥韓国・ソウル近郊のホテルで(旭丘高提供) ⑦ベトナム、カンボジアへの海外フィールドワークに向けて事前の打ち合わせをする生徒たち。左は桐山教諭⑧岐阜県立大垣北高で

ドネシアに行き、現地の伝統工芸品が世界へ販売される現状などを学んだ。

文部科学省はSGHについて「国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る」と掲げる。SGH各校は、ビジネスや環境など学校ごとに分野は異なるものの、海外に向いて視野を広げ、課題を調べて論文などで発表するのはおむね共通している。従来の教科におさまらない総合、探究的な学習手法だ。

なぜこうした学習が必要なのか。京都大学大学院の石井英真准教授(教育方法学)は「社会が変化する中で、学校に求められる役割も変化している」とみる。「グローバル・リーダー」になるような人に限らず、知識の習得だけでは不十分で、知識を活用し創造する力や、国境を越えて「正解のない問題」に対応する力の育成が求められているという。

その実践といえるSGHについて、石井准教授は「高校教育に二石を投じる可能性はある」と評価。一方でSGH指定校はいわゆるエリート校が多い面もあり、「一部の高校、一部の生徒のみを伸ばすのではなく、高校全体の学びの変革にどうつなげていくかが課題」と指摘した。

◆ロボットプログラミング
岐阜県先端科学技術体験センター「サイエンスワールド」(同県瑞浪市)は4月

18、19日、ロボットプログラミング講座を開く。前進や後退、回転のほか、床面のラインをセンサーで読み取って走行するなどのプログラムに挑戦。無料。両日

とも午前、午後の2回で、各回定員10人。対象は4歳以上で、小学4年以下は保護者同伴。申し込みは今月21日から受け付ける。◎サイエンスワールド＝電0572(66)1151

◆定番の卒業ソングは サイバーエージェント(東京都)が運営するインターネットサービス「Ameba」などが10

代女性1920人を対象に実施した「卒業ソングといえば」の調査で、合唱曲「旅立ちの日に」が966票と断トツの1位に輝いた。20代でもトップ。30代以上は海援隊の「贈る言葉」が1位だった。10代では、EXILE(エグザイル)の「道」が2位、レミオロメンの「3月9日」が3位に入った。